

はばたき

男と女がともに歩む情報紙 第47号

平成26年12月発行

企画・発行/海老名市市民活動推進課

人権男女共同参画係

TEL: 046-235-4568【直通】

おかげさまで大盛況!

平成26年度男女共同参画講演会

スポーツから考える男女共同参画

10月5日(日) えびな市民活動センタービナレッジにて男女共同参画講演会を開催し、台風間近の悪天候にも関わらず、300名もの方にご参加いただきました。講師は、ソウル五輪女子柔道銅メダリストの山口香さん。歯切れがよく明快、そしてユーモア溢れる山口さんの言葉からは、自ら道を切り拓いてきたパイオニアとしての熱意と信念が伝わってきました。講演のあとは、参加者との質疑応答も設けられるなど、大充実の講演会でした。



【女だてらに柔道なんて…】

テレビドラマ「姿三四郎」に憧れ、小学生から柔道を始めました。当時、道場には男の子しかおらず、「女の子には女の子らしい習い事を」と、最初は断られましたが、頼み込んで入門しました。女の子だからと特別扱いはなく、男の子と一緒に練習や試合をしてきました。「女だてらに柔道なんて…」という周囲の声に対しても、持ち前の負けん気で乗り越えました。



【先人たちに恥じぬように】

いまでこそ、日本の女子柔道は男子をしのご活躍を見せるようになりましたが、1978年までは公式な試合は認められていませんでした。現在の活躍は、それぞれの時代を支えてきた先人たちの尽力があったからこそであり、私たちは先人の思いを引き継いでいかなければなりません。

昨年、全日本女子柔道ナショナルチームにおいて体罰問題が起きたとき、わたしは体罰を受けた女子選手たちを叱りました。選手たちは、ナショナルチームとして日の丸を背負い、世界に出ていく優秀な人間です。にもかかわらず、その選手たちを殴らなければ指導できないとコーチが判断したことに対して、なぜ「我々は殴られなくても自分でできる人間である。」と毅然と示さなかったのかと。女子柔道の礎を築いてきた先輩たちはみな、戦ってきました。そのような先人たちに対し、恥ずかしく

(次ページへ続く)



(表面のつづき)

スポーツから考える男女共同参画

～山口 香 講演会～



【違いを尊重し、違いに価値を見出す】

ないのかと伝えました。今の選手は、昔に比べ、技術面では強くなっていますが、気持ちの面では弱くなっているのではないかと感じたからです。

これは柔道、スポーツの問題だけではなく、これからの日本の社会が考えなければいけないことだと思います。過去、男尊女卑の風潮が色濃かった社会で女性が苦勞してきた時代に比べ、現在もまだ途上ではあると思いますが、社会の様々な面で女性に対する環境が改善されてきています。しかし、いくら環境が整い、お膳立てされたとしても、当の女性たちが環境に甘えることなくがんばることが一番大切であり、環境がよくなった分、先人たちに敬意を払い、さらに頑張ろうという気持ちこそが重要なのです。



【自他共栄の大切さ】

「自他共栄」

これは柔道の創始者、嘉納治五郎の言葉です。柔道はいくら頑張っても一人ではうまくなりません。「姿三四郎」のように大木を相手に練習をしてもうまくならないのです(笑)。自分を指導してくれる相手がいるからこそ上達することができる。このことを忘れず、相手にしてもらったことを感謝し、今度は自分も他人と同じようにしてやることで恩返しをする。そしてお互いが栄えていく世の中にしようということです。世の中に無駄な人間は一人もいません。すべて社会の一員です。一人ひとりが「自他共栄」の精神で社会に貢献、還元することで、みんなが輪になって力を発揮できる社会になると思います。

安倍政権では女性の活躍を政策に掲げていますが、一方で「女性を入れて何の役に立つんだ」「女性を入れて売り上げが伸びるのか」という声も聞かれます。簡単に売り上げを伸ばすことは難しいかもしれませんが、女性の発想が入ることで今までにないものが生まれることってあると思います。

自分は、出産した時も筑波大学柔道部の監督をしていました。子育ては両親にも手伝ってもらいましたが、面倒を見る人が誰もいない時は、やむにやまれず子どもを道場に連れていきました。道場の人たちには迷惑を掛けたと思いますが、そうやって自分は子育て期を乗り越え、無事、子どもも大きくなりました。キャリアを選ぶか子育てを選ぶかの択一ではなく、両立することができたのです。もちろん、これは道場をはじめとする皆さんが支えてくれたおかげですが、こうした前例を作ることで、次の世代の女性選手たちも「自分も子供を産んでも柔道(仕事)を続けることができるんだ。」というロールモデル(見本)となることができたと思います。そうしたらなんと、女性だけではなく、男性の監督まで子どもを連れてくるようになりました(笑)。

女性の活躍などというと、女性のためだけのもののように感じるかもしれませんが、そうではなく、女性の社会参画が進み、女性の発想が出てくことで男性も恩恵を受けることも多くなると思います。もちろん、女性だけではなく、高齢者や外国人、障がい者など、社会の様々な人の意見が入ることで、世の中がより良くなる。「違いを尊重し、違いに価値を見出す。」これこそが、男女共同参画なのだと思います。



男女共同参画推進員の声

海老名市の男女共同参画のサポーターである、男女共同参画推進員より、講演会の感想が寄せられました。

ひとは他者の立場はわかりにくい。
男性は女性になったことがないので、女性の立場はわかりにくい。
逆もしかり。そこで、自分の感じていること、不都合に思っていることをちゃんと言葉にして伝えることが大事になってくるんですね。
勇気を出して伝えよう！相手の立場になって考えることが自他共栄、全体の幸福につながっていくとのこと。ポーンと威勢よく肩をたたいて励まされた講演会でした。(滝口推進員)



人と人の関わり、そして人との輪のないところに喜びはないということを実感しました。自分一人の力だけでは何事も達成することはないのだと。男も女もその立場を互いに認め合うことの大切さを体で感じました。そして男女を問わず、やりたいことをできる環境があり、みんながイキイキとした社会になるよう今の私たちが努力していくことが必要だと思いました。(飯田推進員)

講演は、山口さんの柔道界の実体験をもとに、男性主体である初期の柔道界の状況、女性が参加自立することの難しさとその克服などを、明快な切り口で語られた。その中で、「違いを尊重し違いに価値を見出す」の名言は、今も脳裏を離れない。この講演を男女共同参画活動の糧としたい。(佐藤推進員)



女の子らしく、男の子らしくを、スポーツから強く優しく美しくをモットーに隔たり無く世界に広めたのが柔道だと知りました。輪のない所に、喜びはなく、人の痛みを知りスポーツに加わった社会全体の人に感謝し、それが、自分にも返ってくる。そんな自らの道を切り拓いた山口香さんのメッセージでした。(松石推進員)



マタハラって知っていますか？

「マタニティ・ハラスメント（マタハラ）」とは、働く女性が妊娠・出産を理由とした解雇・雇止めをされることや、妊娠・出産にあたって職場で受ける精神的・肉体的なハラスメント（嫌がらせ）で、働く女性が増える現代において深刻な問題となっています。女性が離職することなく、いつまでも活躍できる社会になるよう考えてみませんか？

マタニティ・ハラスメントの4類型

（被害者支援団体マタハラnetによる）



昭和の価値観押し付け型

「子どもを第一に考えないとダメ」
「君の体を心配して言っている」

言葉によるいじめ・無視型

「迷惑なんだけど」
「休めていいよね」

パワハラ型

「時短勤務なんて許さない」
「夕方帰る正社員なんて…」

追い出し型

「子どもができたらやめて」
「妊婦雇う余裕はないよ」



セクハラ ひとりで悩まないで

セクハラで悩んでいませんか？セクハラを受けた時には、一人で我慢しているだけでは決して問題は解決しません。職場の同僚や信頼できる上司、職場が設けている相談窓口等に勇気を出して相談してみましょう。

相談できる人がいない、社内の相談窓口相談しづらい時は、下記の相談機関をご利用ください。



マタハラ・セクハラのご相談は…

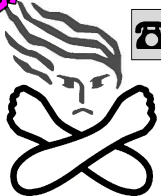
神奈川県労働局雇用均等室

☎ 045-211-7380（月～金（祝日を除く）8:30～17:15）



海老名市では、「女性相談員による女性のための相談」を実施しています。夫婦・家族のこと、DV（夫等からの暴力）などについて一緒に考えます。

☎女性相談ダイヤル 231-2224 月～金（祝日を除く）8:30～17:15



女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク

※その他に 海老名女性支援電話「そよ風」（非営利のボランティア組織）による相談もあります。

☎235-7353 火曜：10:00～13:00 / 土曜：13:00～16:00（無料）